資料７

市の現状のまとめ

１背景

・我が国の総人口は、今後加速度的に減少すると想定される。国立社会保障・人口問題研究所によれば、このまま人口が減少すると、令和４２（２０６０）年には日本の総人口が８，６７４ 万人まで減ることが予測されている。

・本市においては、現在も人口増加が進んでおり、平成２８（２０１６）年２月に策定した「人口ビジョン」によると、当分の間はその傾向が続くと予測されている一方で、長期的には人口減少に転じ、少子高齢化が進むと想定されている。

・平成２９（２０１７）年に市制施行５０周年を迎え、令和２（２０２０）年には東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となった。これを契機として、将来にわたって市の魅力を持続的にアピールしていくとともに、市の活性化や持続的成長につなげ、次世代への良質な資産創造と朝霞市の認知度が向上されるよう取組を進めてきた。

・今後も引き続き、時代に合わせた形の魅力発信に努めるほか、市のブランドタグライン「むさしのフロントあさか」の表現する自然と利便性が保たれた、持続可能なバランスのいいまちを実現するとともに、第５次総合計画の将来像「私が 暮らしつづけたいまち 朝霞」の実現に向け取り組んでいく。

２現状

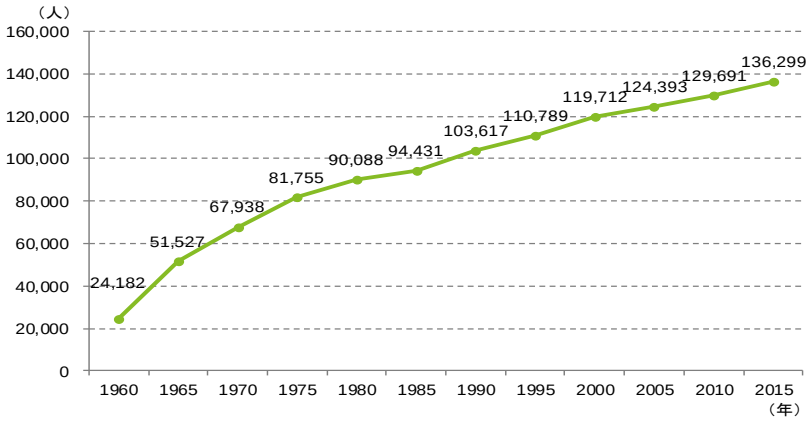
（１）朝霞市の人口動態

①総人口の推移

・総人口は、1960 年から増加傾向にある。

・1980 年までは 10%以上増加しており、1985 年以降はおよそ 5%の増加を続けている。

・東武東上線の有楽町線や副都心線との相互乗り入れなど、都心へのアクセスの利便性向上が増加を続ける一因と考えられる。



年	総人口（人）
1960	24,182
1965	51,527
1970	67,938
1975	81,755
1980	90,088
1985	94,431
1990	103,617
1995	110,789
2000	119,712
2005	124,393
2010	129,691
2015	136,299

出所：国勢調査（総務省）

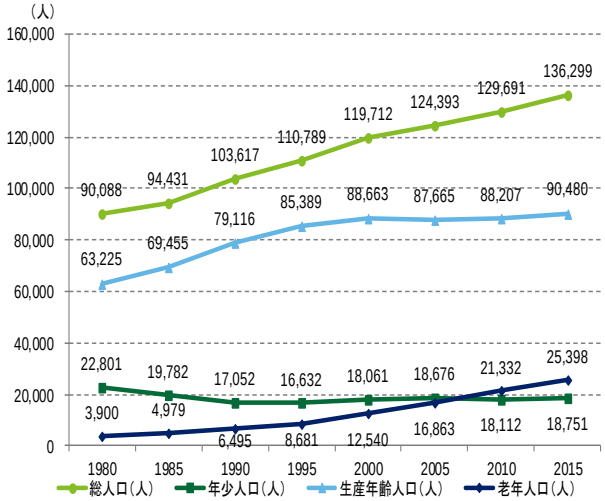
②年齢三区分別人口の推移

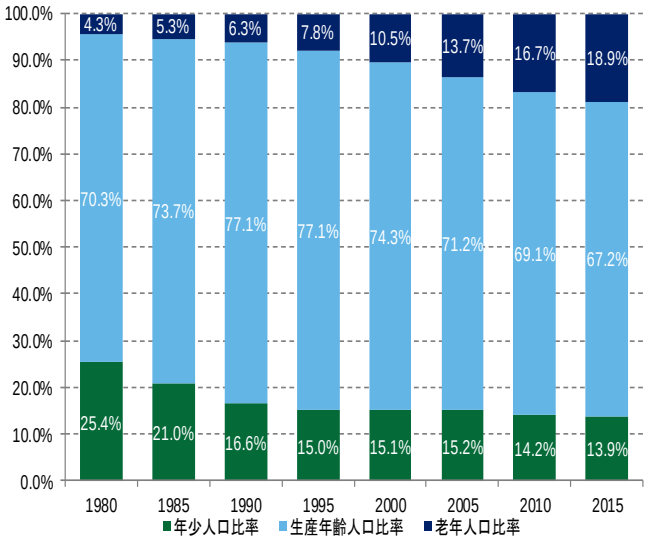
・年少人口は、増加と減少を繰り返しつつも、長期的には減少傾向にある。

・生産年齢人口は、2005 年に一度減少しているが、増加傾向にある。

・老年人口は、1980 年から増加傾向にあり、2010 年に年少人口を上回っている。

・比率で見ると、年少人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進んでいることが伺える。





年	総人口(人)	年少人口(人)	生産年齢人口(人)	老年人口(人)	年少人口比率	生産年齢人口比率	老年人口比率
1980	90,088	22,801	63,225	3,900	25.4%	70.3%	4.3%
1985	94,431	19,782	69,455	4,979	21.0%	73.7%	5.3%
1990	103,617	17,052	79,116	6,495	16.6%	77.1%	6.3%
1995	110,789	16,632	85,389	8,681	15.0%	77.1%	7.8%
2000	119,712	18,061	88,663	12,540	15.1%	74.3%	10.5%
2005	124,393	18,676	87,665	16,863	15.2%	71.2%	13.7%
2010	129,691	18,112	88,207	21,332	14.2%	69.1%	16.7%
2015	136,299	18,751	90,480	25,398	13.9%	67.2%	18.9%

※年齢３区分人口は、年齢不詳人口を含まないため、総人口には一致しない
※比率は、年齢不詳人口を除いている

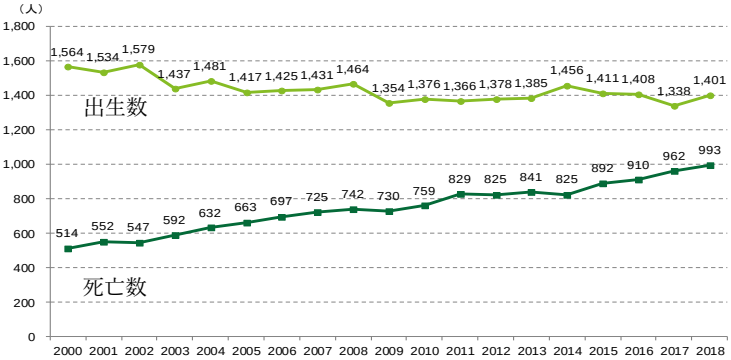
出所：国勢調査（総務省）

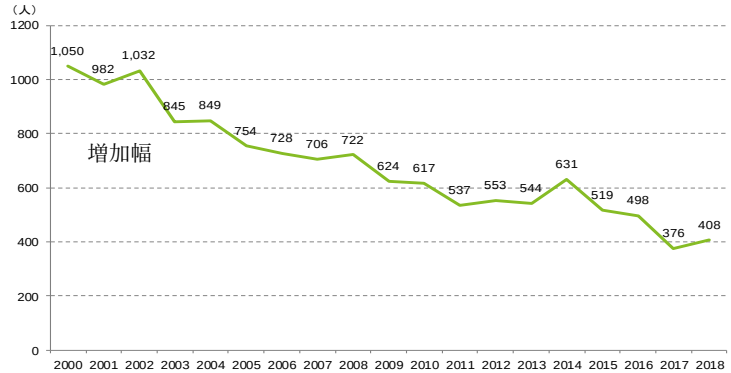
③出生・死亡数及び自然増減の推移

・出生数は、2003 年に減少した後、横ばいで推移している。

・死亡数は、減少している年もあるが、長期的に増加傾向にある。

・自然増減は、2000 年から 2018 年まで自然増を維持しているが、増加幅は長期的に減少傾向にある。





年	出生数	死亡数	自然増減（出生－死亡）
2000	1,564	514	1,050
2001	1,534	552	982
2002	1,579	547	1,032
2003	1,437	592	845
2004	1,481	632	849
2005	1,417	663	754
2006	1,425	697	728
2007	1,431	725	706
2008	1,464	742	722
2009	1,354	730	624
2010	1,376	759	617
2011	1,366	829	537
2012	1,378	825	553
2013	1,385	841	544
2014	1,456	825	631
2015	1,411	892	519
2016	1,408	910	498
2017	1,338	962	376
2018	1,401	993	408

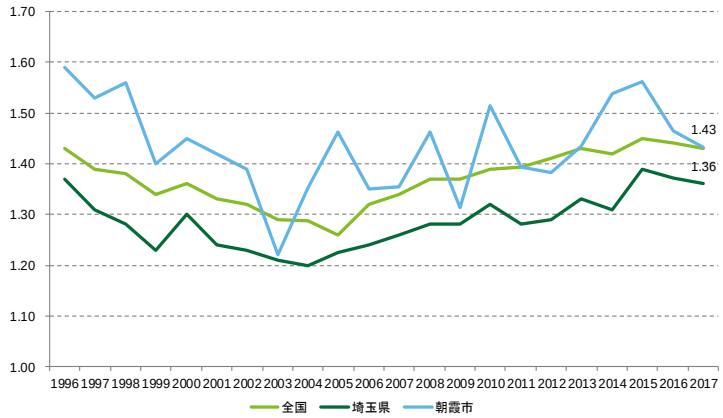
出所：統計あさか

④合計特殊出生率の推移

・合計特殊出生率は、増減を繰り返しながらも、概ね 1.30～1.50 の間で推移している。

・全国と比較すると、多くの年で上回っており、2017 年は同水準となっている。

・埼玉県と比較すると、1996 年～2017 年にかけて上回っている。



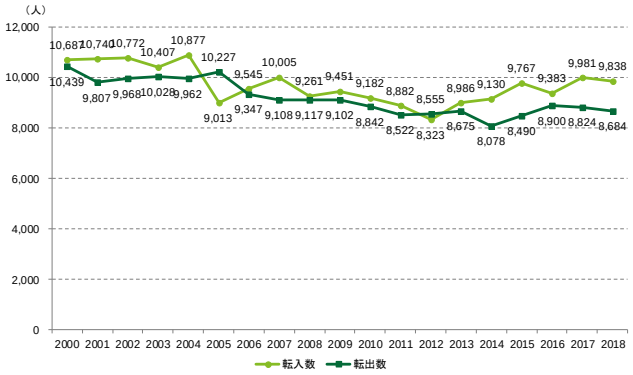
年	全国	埼玉県	朝霞市
1996	1.43	1.37	1.59
1997	1.39	1.31	1.53
1998	1.38	1.28	1.56
1999	1.34	1.23	1.40
2000	1.36	1.30	1.45
2001	1.33	1.24	1.42
2002	1.32	1.23	1.39
2003	1.29	1.21	1.22
2004	1.29	1.20	1.35
2005	1.26	1.22	1.46
2006	1.32	1.24	1.35
2007	1.34	1.26	1.35
2008	1.37	1.28	1.46
2009	1.37	1.28	1.31
2010	1.39	1.32	1.51
2011	1.39	1.28	1.39
2012	1.41	1.29	1.38
2013	1.43	1.33	1.43
2014	1.42	1.31	1.54
2015	1.45	1.39	1.56
2016	1.44	1.37	1.47
2017	1.43	1.36	1.43

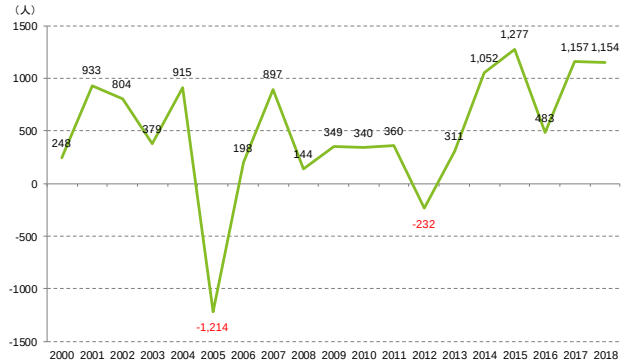
出所：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

・転入数は、2012 年まで長期的に減少傾向だったが、2015 年にかけて増加し、以降 9,000 人台で推移している。

・転出数は、長期的に減少傾向にある。

・社会増減は、2005 年と 2012 年を除いて、社会増となっている。





年	転入数	転出数	社会増減（転入－転出）
2000	10,687	10,439	248
2001	10,740	9,807	933
2002	10,772	9,968	804
2003	10,407	10,028	379
2004	10,877	9,962	915
2005	9,013	10,227	-1,214
2006	9,545	9,347	198
2007	10,005	9,108	897
2008	9,261	9,117	144
2009	9,451	9,102	349
2010	9,182	8,842	340
2011	8,882	8,522	360
2012	8,323	8,555	-232
2013	8,986	8,675	311
2014	9,130	8,078	1,052
2015	9,767	8,490	1,277
2016	9,383	8,900	483
2017	9,981	8,824	1,157
2018	9,838	8,684	1,154

出所：統計あさか

（２）転入・転出に関する意識

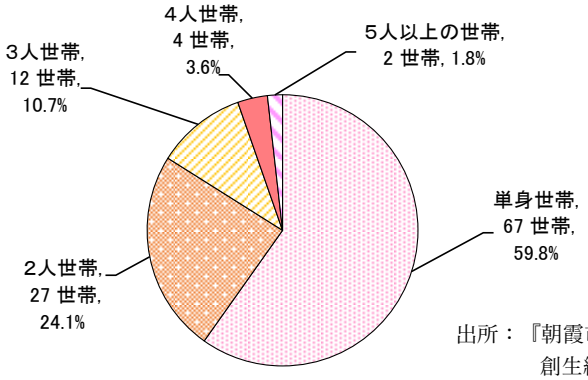
・朝霞市の総人口は依然として緩やかな増加を続けており、同傾向は今後もしばらくは続くものと推計されている。

・一方で、朝霞市への転入と朝霞市からの転出状況を年齢階級別に分析すると、近年の特徴として「子どもが就学する前に世帯全員で転出している」という傾向が見受けられる。

・このことから、定住・子育てに関する意識とニーズを把握するため、子育て世帯ならびに転入世帯、転出世帯を対象としたアンケート調査により、以下の項目について調査を行った。

①転入者の世帯構成

・転入者の世帯構成については、「単身世帯」が 67 世帯（59.8%）で最も多く、次いで「２人世帯」27 世帯（24.1%）、「３人世帯」12 世帯（10.7%）となっている。



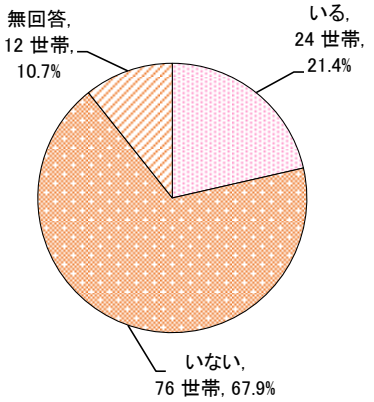
出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

・子どもがいる世帯は 24 世帯（21.4%）、子どもの人数は 25 人となっている。

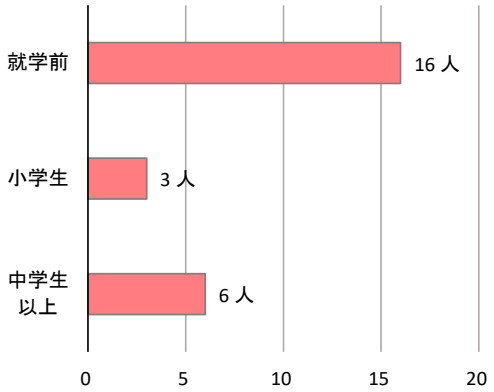
・年齢層は「就学前」が 16 人と最も多く、次いで「中学生以上」が 6 人、「小学生」3 人となっている。

・前項の世帯構成をみると、単身を除けば、２人世帯が 27 世帯、３人以上の世帯が 18 世帯であることから、転入者の中には、保護者一人と子どもの世帯も複数あると考えられる。

［世帯における子どもの有無］



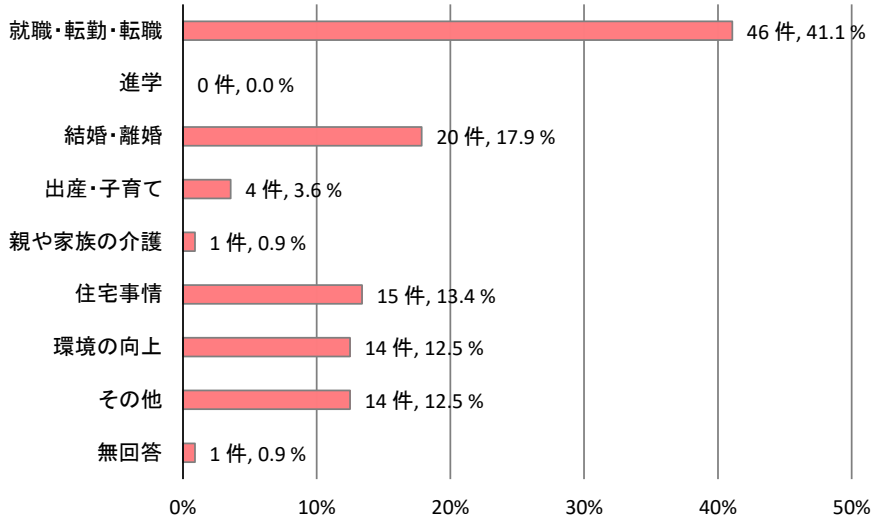
［子どもの年齢層］



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

②転入のきっかけ・理由

・主な転入のきっかけについては、「就職・転勤・転職」が 46 件（41.1%）で最も多く、「結婚・離婚」が 20 件（17.9%）、「住宅事情」が 15 件（13.4%）、「環境の向上」が 14 件（12.5%）で続いている。

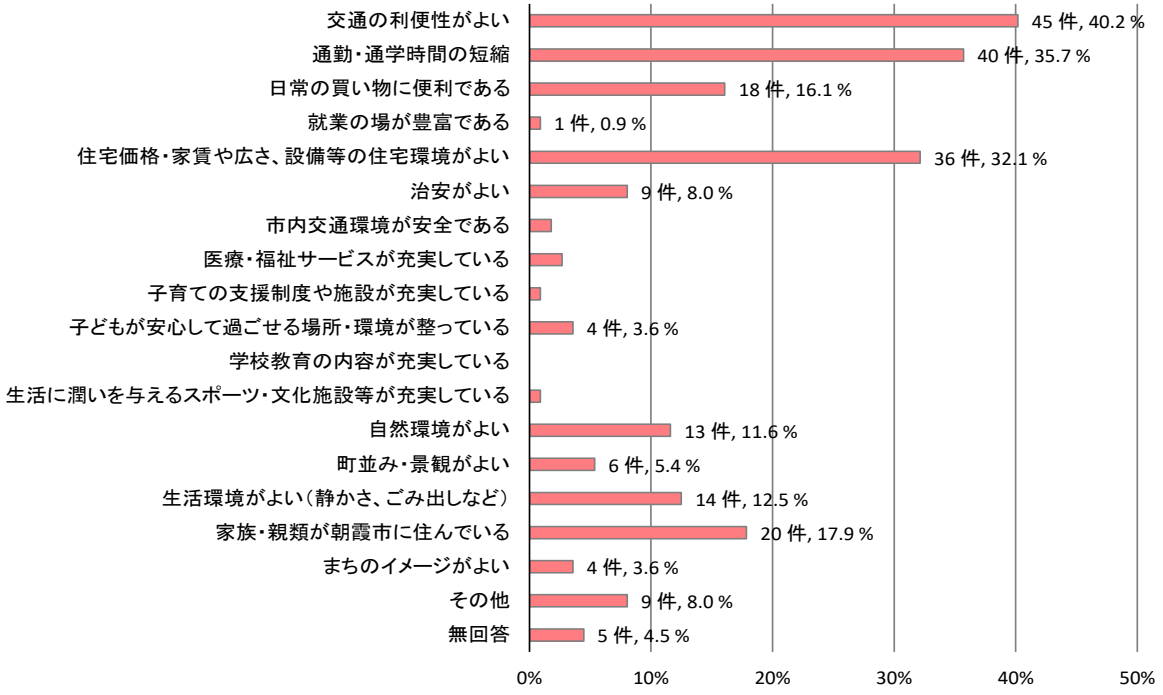


出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

・本市を居住地に決めた理由については、「交通の利便性が良い」が 45 件（40.2%）と最も多く、「通勤・通学時間の短縮」の 40 件（35.7%）と合わせて、他地域に行きやすいことが評価されている。

・次いで、「住宅価格・家賃や広さ、設備等の住環境が良い」が 36 件（32.1%）、「家族・親類が朝霞市に住んでいる」が 20 件（17.9%）と多くなっている。

・また、「日常の買い物に便利である」も 18 件（16.1%）で続いている。



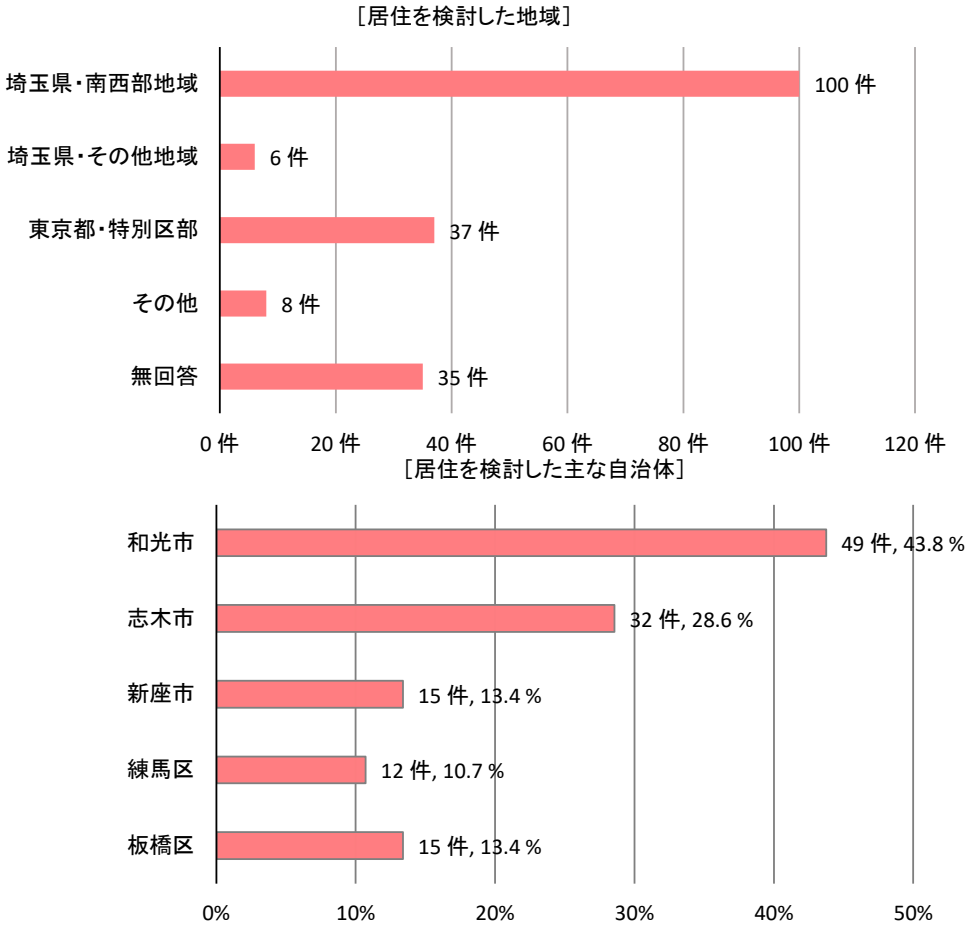
出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

③居住検討地域

・朝霞市以外で居住を検討した地域について見ると、本市周辺の「埼玉県・南西部地域」との回答が 100 件で最も多くなっている。

・内訳をみると、「和光市」が 49 件（43.8%）と最も多く、次いで、「志木市」が 32 件（28.6%）、「新座市」が 15 件（13.4%）となっている。

・東京都・特別区部の内訳をみると、「板橋区」が 15 件（13.4%）、「練馬区」が 12 件（10.7%）となっている。

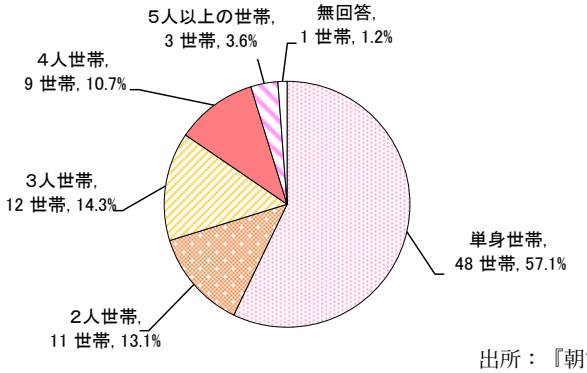


出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

④転出者の世帯構成

・転出者の世帯構成については、「単身世帯」が 48 世帯（57.1%）で最も多く、次いで「3 人世帯」が 12 世帯（14.3%）、「２人世帯」が 11 世帯（13.1%）で、全体の約 85%を占めている。

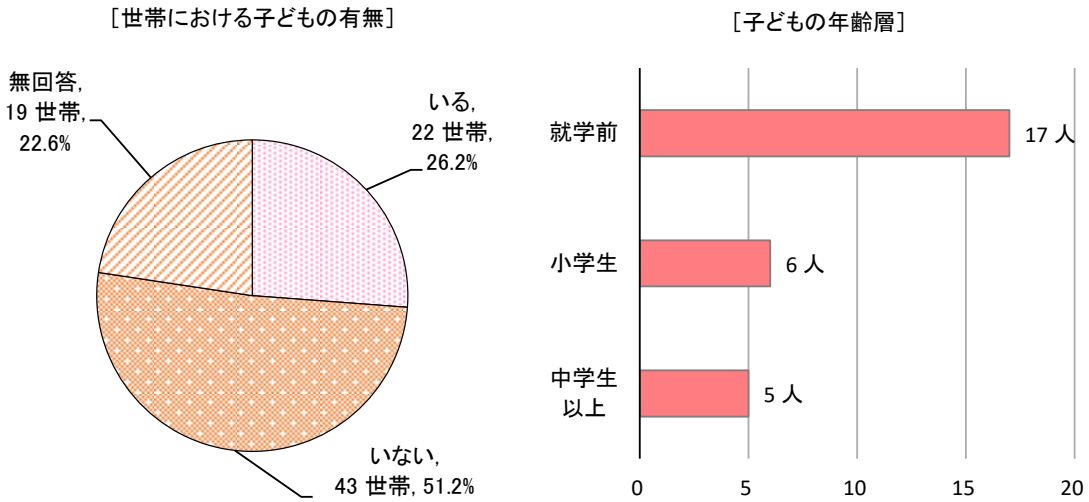
・その他、「４人世帯」が 9 世帯（10.7%）、「５人以上の世帯」が 3 世帯（3.6%）となっている。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

・子どもがいる世帯は 22 世帯（26.2%）、子どもの人数は 28 人となっている。

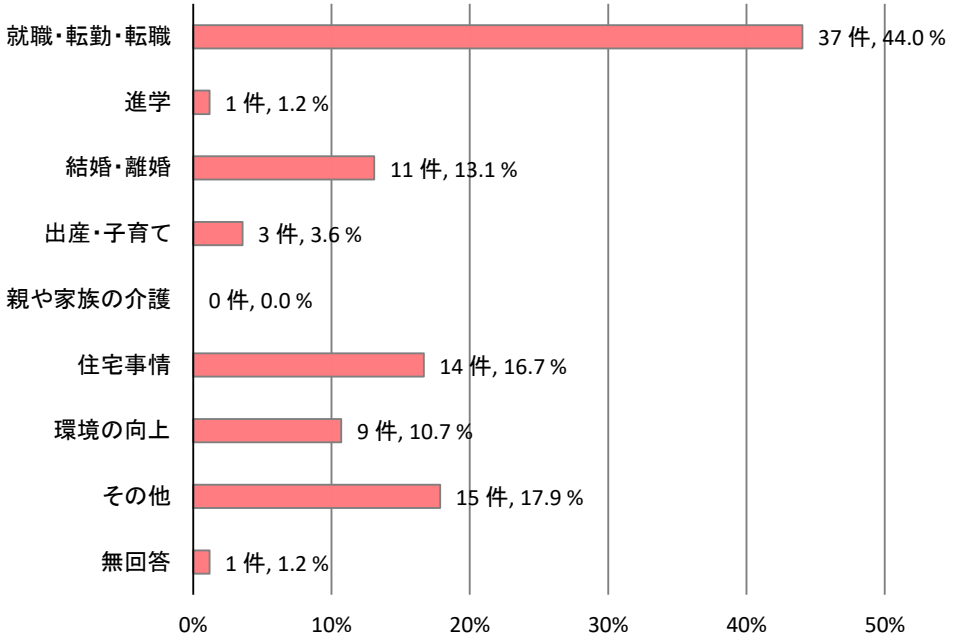
・年齢層は「就学前」が 17 人と最も多く、「小学生」が 6 人、「中学生以上」が 5 人となっている。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

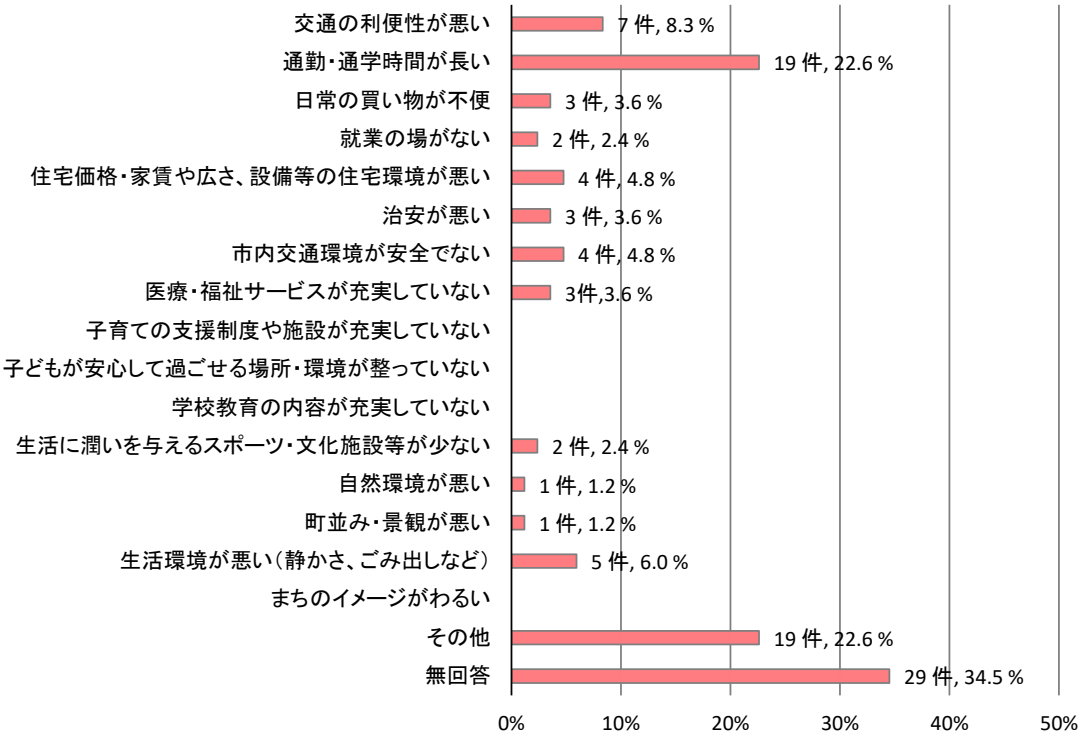
⑤転出のきっかけ・理由

・主な転出のきっかけについては、「就職・転勤・転職」が 37 件（44.0%）で最も多く、「住宅事情」が 14 件（16.7%）、「結婚・離婚」が 11 件（13.1%）、「環境の向上」が 9 件（10.7%）で続いている。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

・本市から転出する理由については、「通勤・通学時間が長い」が 19 件（22.6%）と最も多くなっている。なお、「その他」と「無回答」が多く、他の項目については回答が 7 件以下と少なくなっている。



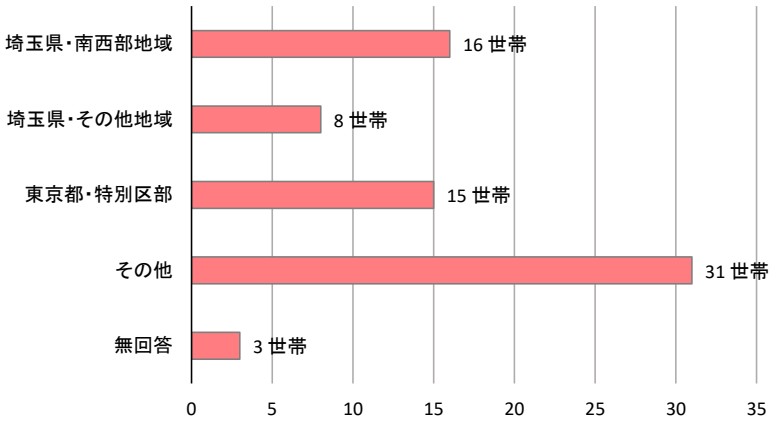
出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

⑥転出先

・転出先の居住地域については、埼玉県内が 24 世帯、東京都内が 15 世帯となっている。

・埼玉県内では、本市周辺の「南西部地域」が 16 世帯と半数以上を占め、内訳をみると「新座市」が 8 世帯で最も多くなっている。

・東京都内では「特別区部」が 15 世帯となっており、その内訳をみると「板橋区」が 8 世帯、「練馬区」が 5 世帯と多くなっている。

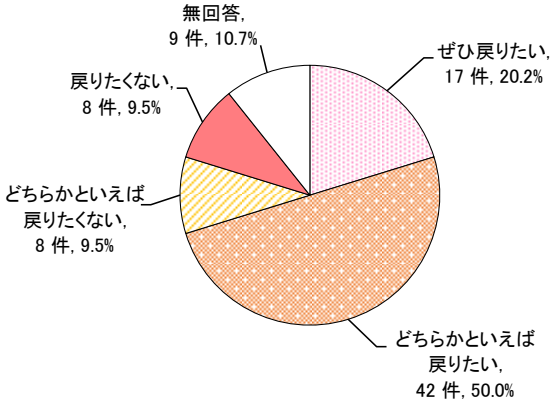


出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

⑦将来の居住について

・将来、機会があれば朝霞市に戻りたいと思うかについては、「どちらかといえば戻りたい」が 42 件（50.0%）と過半数を占め、「ぜひ戻りたい」の 17 件（20.2%）と合わせて、肯定的な意向が 70.2%と約 7 割に達している。

・一方で、「戻りたくない」と「どちらかといえば戻りたくない」がそれぞれ 8 件（9.5%）となっており、否定的な意向も 19.0%と約 2 割を占めている。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

（３）定住に関する意識

・朝霞市の総人口は依然として緩やかな増加を続けており、同傾向は今後もしばらくは続くものと推計されている。

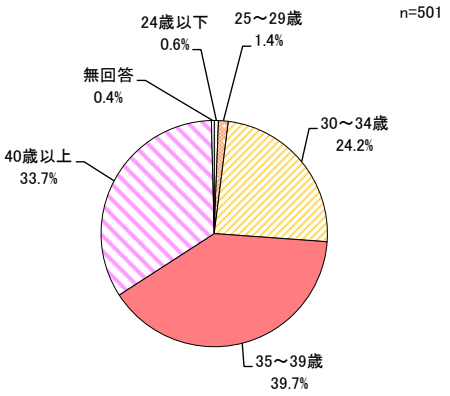
・一方で、朝霞市への転入と朝霞市からの転出状況を年齢階級別に分析すると、近年の特徴として「子どもが就学する前に世帯全員で転出している」という傾向が見受けられる。

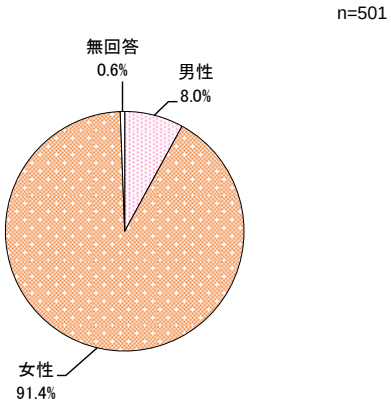
・このことから、定住・子育てに関する意識とニーズを把握するため、子育て世帯ならびに転入世帯、転出世帯を対象としたアンケート調査により、以下の項目について調査を行った。

①回答者の年齢及び性別

・年齢については、「35～39 歳」が 39.7%と最も多く、次いで「40 歳以上」（33.7%）、「30～34 歳」（24.2%）となっている。

・性別については、「男性」が 8.0%、「女性」が 91.4%となっている。

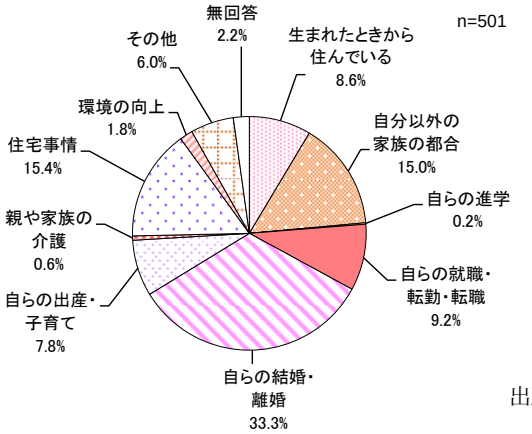




出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

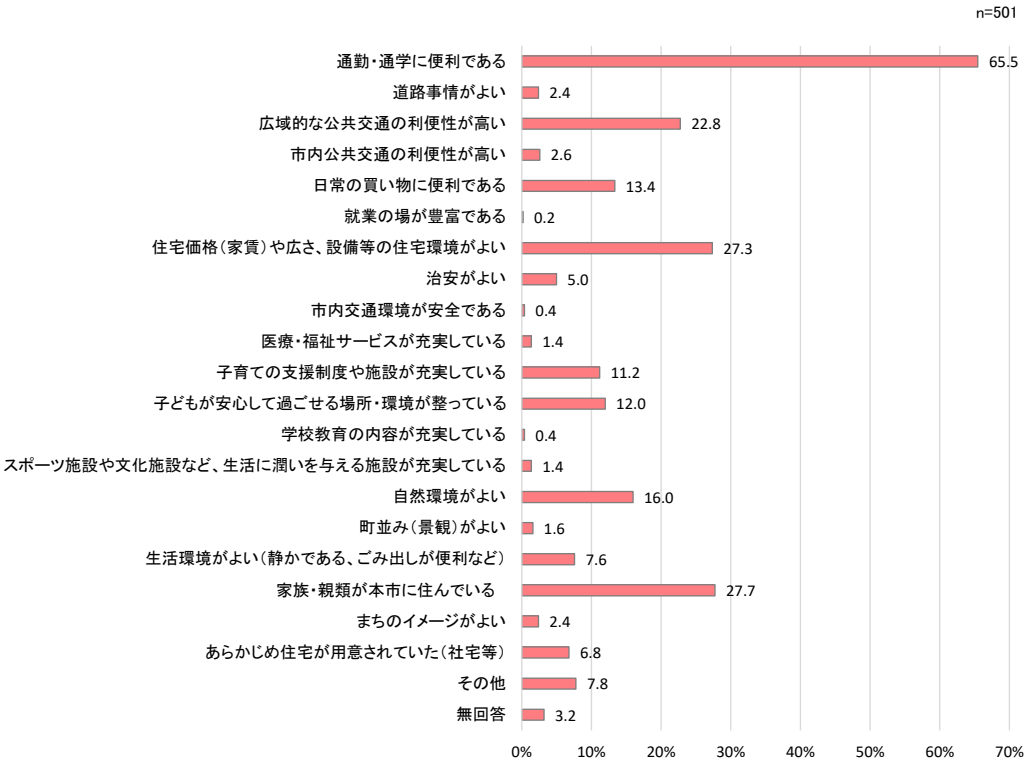
②居住のきっかけ・理由

・朝霞市での居住のきっかけについては、「自らの結婚・離婚」が 33.3%と最も多く、次いで「住宅事情」（15.4%）、「自分以外の家族の都合」（15.0%）、「自らの就職・転勤・転職」（9.2%）となっている。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

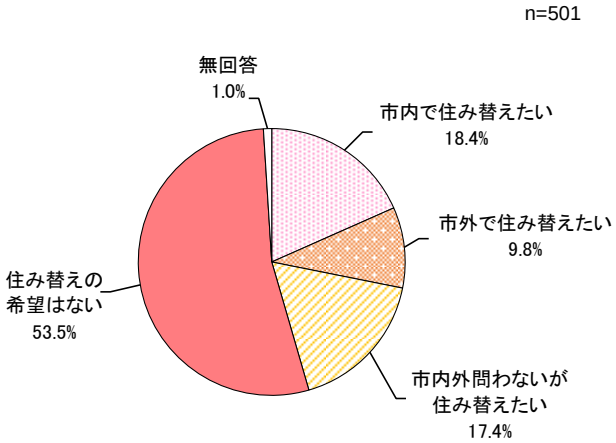
・朝霞市を選んだ理由については、「通勤・通学に便利である」が 65.5%と最も多く、次いで「家族・親類が本市に住んでいる」の 27.7%、「住宅価格（家賃）や広さ、設備等の住宅環境がよい」（27.3%）「広域的な公共交通の利便性が高い」（22.8%）、「自然環境がよい」（16.0%）となっている。
・「その他」（7.8%）として、「実家が近隣（他市）に住んでいる」「以前住んでいたことがある」「家を買う時に紹介されたのが朝霞だったから」などの意見があった。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

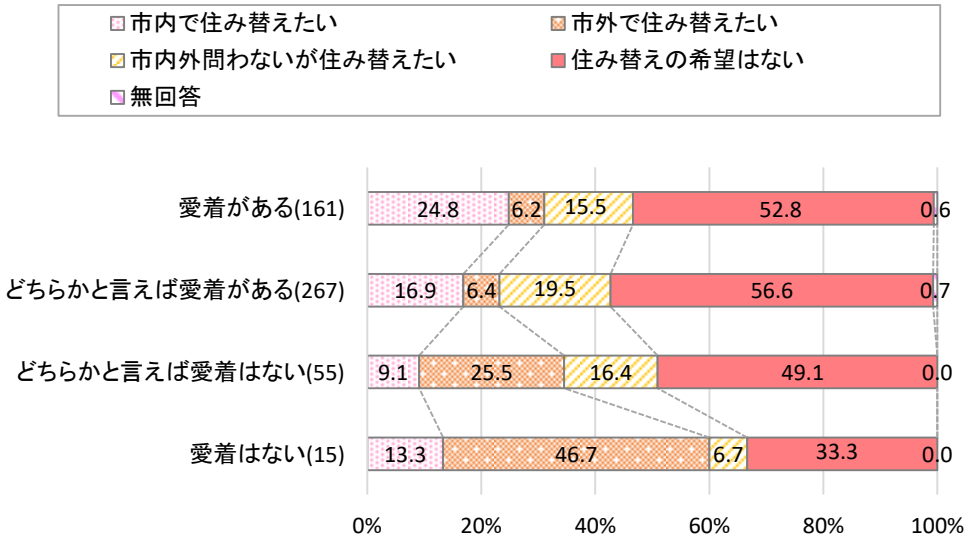
③住み替えの希望・候補地・理由

・将来の住み替えについては、「住み替えの希望はない」が 53.5%と最も多く、次いで「市内で住み替えたい」（18.4%）、「市内外問わないが住み替えたい」（17.4%）、「市外で住み替えたい」（9.8%）となっている。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

・住み替え希望を子育て状況別に見ると、「市内で住み替えたい」の回答割合は、愛着があるほど高くなる傾向があり、一方、「市外で住み替えたい」の回答割合は低くなる傾向となっている。ただし、愛着がある方についても「市内問わないが住み替えたい」の割合は高くなっている。

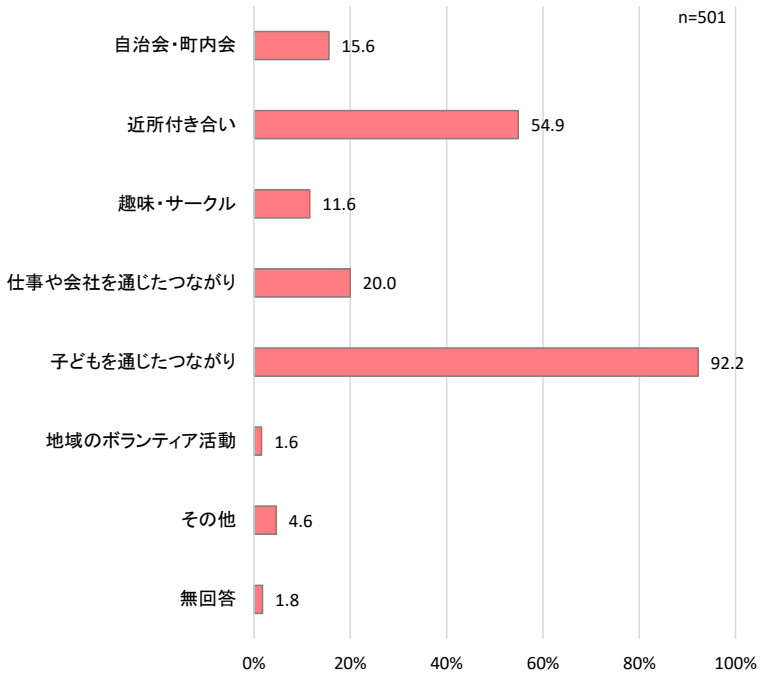


出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

④地域とのつながり

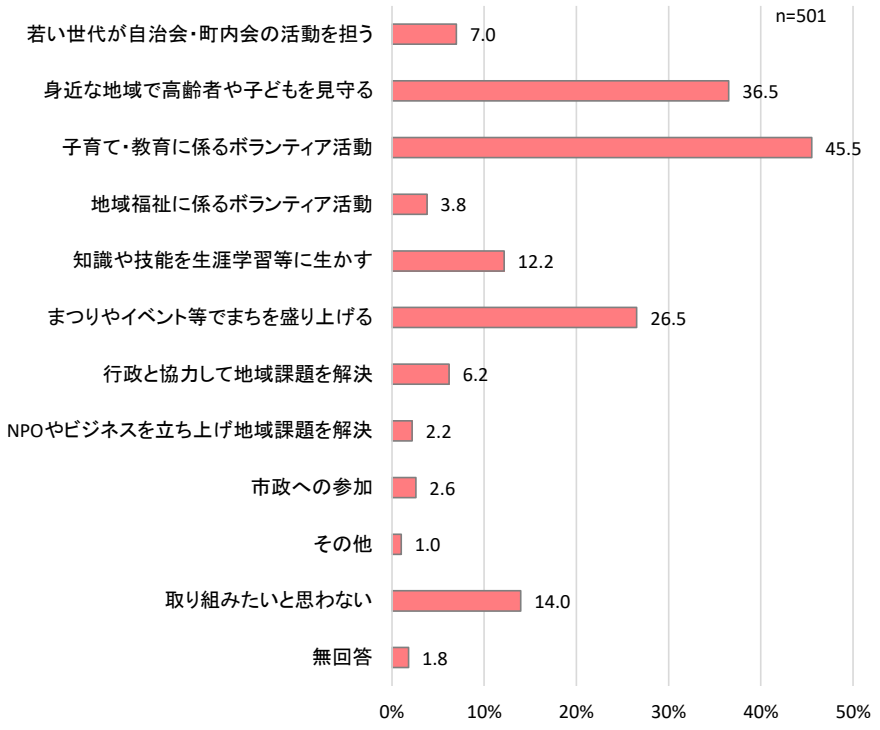
・地域とのつながりについては、「子どもを通じたつながり」が 92.2%と最も多く、次いで「近所付き合い」(54.9%)、「仕事や会社を通じたつながり」(20.0%)、「自治会・町内会」(15.6%) となっている。

・「その他」(4.6%) として、「学生時代の友人関係」「飲食店などのお店を通じたつながり」「ペットを通じたつながり」などの意見があった。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

・関わりたいまちづくりへの取り組みについては、「子育て・教育に係るボランティア活動」が 45.5%と最も多く、次いで「身近な地域で高齢者や子どもを見守る」（36.5%）、「まつりやイベント等でまちを盛り上げる」（26.5%）となっている。
・「その他」（1.0%）として、「スポーツ活動」「プレイパーク」「まちの自然景観を守る活動」などの意見があった。



出所：『朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定時資料

（4）愛着、誇りに関する意識

・本市に対する愛着や誇りについて把握するため、市政モニターを対象としたアンケート調査により、以下の項目について調査を行った。

①愛着

・愛着については、「感じている」が 46.7%と最も多く、「感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせると、82.2%と 8 割を超えている。

回答内容	回答件数	構成比（%）
感じている	92	46.7
どちらかといえば感じている	70	35.5
どちらともいえない	21	10.7
あまり感じていない	14	7.1
全く感じていない	0	0.0
無回答	0	0.0

②誇り

・誇りについては、「どちらともいえない」が 35.0%と最も多く、「感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせると、53.8%と半数を超えているが、「全く感じていない」も 2.5%の結果だった。

回答内容	回答件数	構成比（%）
感じている	40	20.3
どちらかといえば感じている	66	33.5
どちらともいえない	69	35.0
あまり感じていない	16	8.1
全く感じていない	5	2.5
無回答	1	0.5

出所：令和元年度第 1 回市政モニターアンケート結果

③愛着と誇りの関係

・愛着について、「感じている」を選択した者の中では、誇りを「感じている」を選択する者が最も多く（43.5%）、次いで「どちらかといえば感じている」が多かった（37.0%）。

・愛着について、「あまり感じていない」を選択した者の中では、誇りを「あまり感じていない」を選択する者が最も多く（42.9%）、次いで「どちらともいえない」、「全く感じていない」が同数だった（28.6%）。

誇り / 愛着	感じている	どちらかといえば感じている	どちらともいえない	あまり感じていない	全く感じていない	無回答
感じている	43.5%	37.0%	17.4%	2.2%	0.0%	0.0%
どちらかといえば感じている	0.0%	42.9%	42.9%	11.4%	1.4%	1.4%
どちらともいえない	0.0%	9.5%	90.5%	0.0%	0.0%	0.0%
あまり感じていない	0.0%	0.0%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%
全く感じていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

出所：令和元年度第 1 回市政モニターアンケート結果

④愛着や誇りを感じる点

・愛着や誇りを感じている点についての自由記述欄では、「住環境が良い「都心に近く、交通利便性が良い」との回答が多く、次いで「自然を感じられる」、「彩夏祭の鳴子や花火」との回答が多かった。

回答内容	件数
住環境が良い	42
都心に近く、交通利便性が良い	41
自然を感じられる	36
彩夏祭の鳴子や花火がある	20
公共施設や公園が充実している	15
子育て環境が良い	11
地域のつながりが感じられる	9
活気が感じられる	2

出所：令和元年度第１回市政モニターアンケート結果

・愛着や誇りを感じていない点についての自由記述欄では、「特色を感じられない」との回答が最も多く、次いで「道路整備が十分でない」、「開発の仕方が良くない」との回答が多かった。

回答内容	件数
特色を感じられない	10
道路整備が十分でない	7
開発の仕方が良くない	6
行政施策が良くない	5
商業に活気がない	5
芸術文化が振興されていない	3
朝霞台駅が利用しづらい	3

出所：令和元年度第１回市政モニターアンケート結果